



日用心法鈔後篇

下

9
1303
6



口七九
1903
6



日用心法鈔後篇下目録

- 一 魯の哀公孔子の家めいこうこういの不祥伐ふしやう回くわいむむ事こと 二丁
- 一 盗ぬすするふの大損おほいそん大難おほいなん飲いん大馬おほいば廐けいの事こと 八丁
- 一 宋そう滅めつ商しょうひひ世よ伐はつ安あんののふふららせせ一一人ひとの事こと 十三丁
- 一 傑しやくふふららししきき世よの中なかああままどどままおおぢぢりりれれ一一事こと 十八丁
- 一 悪あく事こと人ひとのの天てん地ちのの百ひゃくふふちちのの事こと 十八丁
- 一 大盗おほいぬす人ひと江え戸こふふててむむりりつつけけふふかかりり一一事こと 廿二丁
- 一 女めののこころろささままたたるる一一事こと 廿二丁
- 一 人間にんげんののかかききああ一一へへここががままたた不ふ忠ちゆう不ふ孝かうのの備び全ぜんととままかかららぬぬ事こと 廿六丁

日用心法鈔後篇下目録

金銀貨幣きんぎんがかりてかりも無む道みち志してていふいのの事こと

城しろ後ごの高たか田たふてふ金かねとと拾ひろひひ一ひと人ひとのの事こと 廿七丁

城しろ別べつ伏ふし見みふてふ金かねとと拾ひろひひ一ひと人ひとのの事こと 三十三丁

証しやうとと本ほん奥おくのの事ことのの事こと 三十七丁

世界中せかいぢゆう此人こじんがが存ぞん奉ほうのの置おきぞぞここのの事こと 四十二丁

奢おごりり者もののの世よ上うへのの役やく必かならず死しすす食くととあるある事こと 四十九丁

家いへととよくよく治おさめてめて後のちふたふたままささのの花はなをを世よととのの事こと 五十二丁

手て習しゆ義ぎ術じゆつ行ぎやう儀ぎ法ぽう何なにのの福ふくおお智ちひひたるたる事こと 五十三丁

牙かととよくよく治おさめめ家いへとと毎まい一ひと切きとと付つてて子こ孫そん一ひと流ながすす事こと 五十五丁

日用心法鈔後編下

孔子家語九くわんし魯ろのの哀あひ公こう孔子くわんしのの問もんてていいうう寡くわ人じん東とう益えきをを不ふ祥しやう

とと聞き信しんままこれこれ何なにもも孔子くわんし答こたへててののみみりり不ふ祥しやうりり五ごつつ何なにり

東とう益えき不ふ喪さうかかずず夫その人ひととと損そんふふてて自まづかかるるをを益えき身みのの不ふ祥しやうありりと

外ほかのの四よつつ何なにもも此こゝ心こゝろ魯ろのの國くに北きた大だい名めい哀あひ公こう孔子くわんしはは魯ろののみみりりのの事こと

東とう益えきとと魯ろのの東とう北きたのの鬼おに門もんへへ張ちやう出しゅつしたした家いへをを不ふ祥しやう不ふ吉きちとと嘆なげふふ

賊ぞくをを左ひだり扶たすくくのの間まありり孔子くわんし答こたへててののみみりり天下てんかにに不ふ祥しやう不ふ吉きち五ごつつ

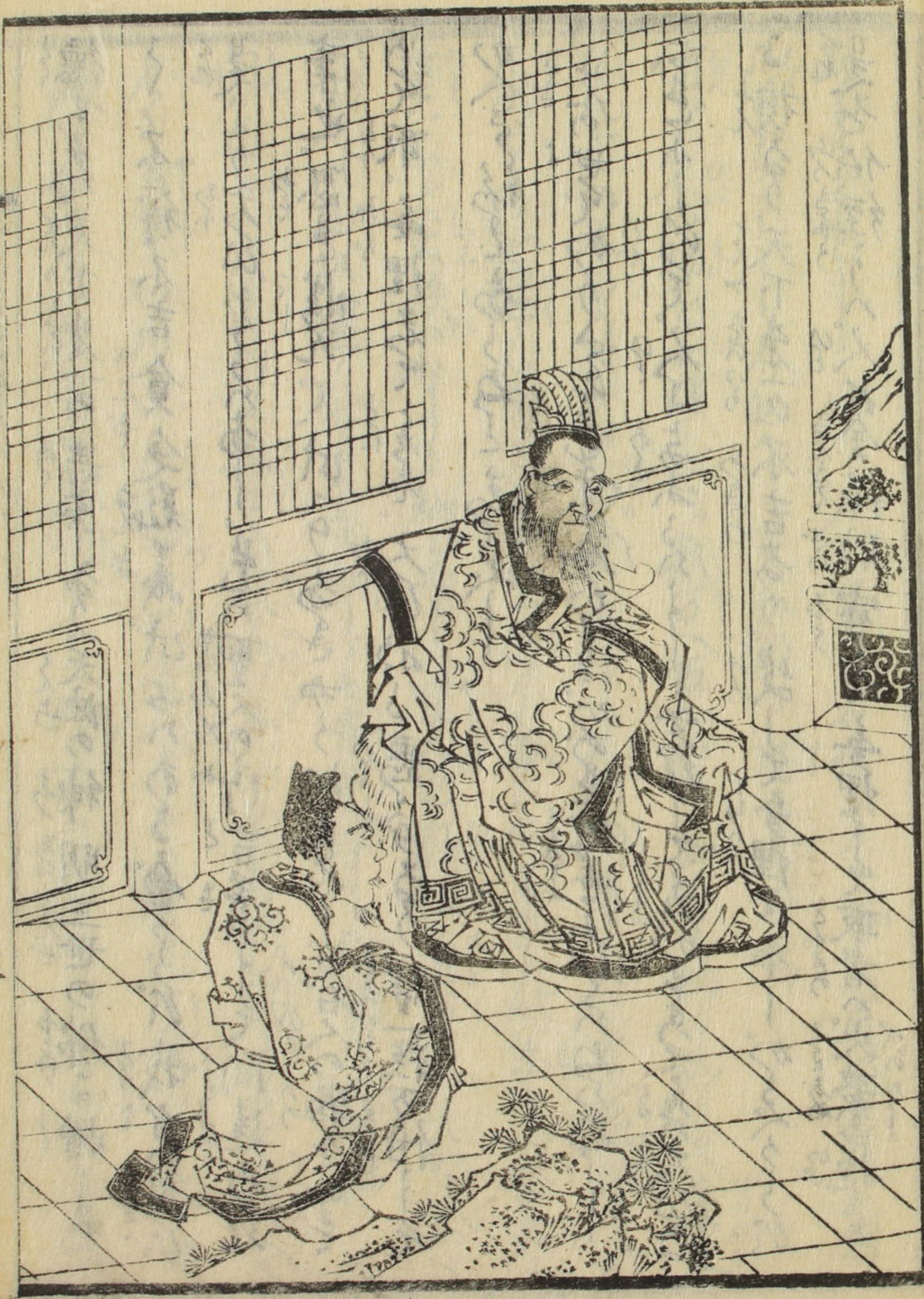
ああららままいいともとも鬼おに門もん張ちやうのの表あは庭ていををののりりとといいふふ身み一ひと人ひとのの物ものをを換かへへ

してして我われ物ものををせせんんとといいふふ身み一ひと人ひとのの取とりりとといいふふ大だい不ふ吉きちありりとと作あせせらられれりり

天下てんかにに大だい不ふ吉きち五ごつつ何なにもも中なかにに其その身み一ひと番ばんとといいふふ損そんををかかけけてて以もちち方かた斗とりり



魯の哀公孔子に東益の
不祥かと問ひしに
名詮しつゝ西家の東の
東家の西あり誰その
極と知らんや



徳を多し。天下才一の悪事あり。天地の神明三世の佛は増まじ
 く。不祥不吉貪婪義比よのあはれ。我が身の災ひ
 是れより大ひなるあり。是の聖人の序言義より。間遠る死
 事也。思はれんてけり。あきかうにまじ。若人の物をかき
 めて取。各理あてを。大ひぬる悪する。皆一粒万倍して
 かくらぬをあらぬとあるべし

○此の世でかりくをある今かき。いづれ浮き。むのぬれぬ
 ことふ。ゆて。人よふふ。各理して。かきあて。大ひ
 る。擲る。天下才一の不吉あり。皮して。各理して。かきあて。大ひ
 是を。仏經より。人れ。金銀財寶を。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 ひのたす

死するがど。く。く。人の寶と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 死するがど。く。く。人の寶と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 何ぞも人の物と。各理して。我。取。火。抱。く。く。食。之
 かんごの本あり。よく。劫。入。く。人の物と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 人のものと。盗む。く。く。く。人の物と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 盗む。く。く。く。人の物と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 一寸人の物。盗んで。く。く。く。人の物と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 見。く。く。く。人の物と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ
 声。く。く。く。人の物と。各理して。取者。火聚を。抱き。こ

又んきひくも遠形一寸でも人の物を取らる。モウけ世のへ
 けむむ。死脈の打する人あり。況世未末也。うかじ世あり。又
 大金以取ても安心。きふ事おん。若安ん。況山小きくも
 事かんと解れて盗賊といふ事か知るるあり。拍角盗る夜
 事。金銀と安心。況山小。きふ事あり。おん。うかじ世あり。又
 いふ小。盗人なり。難儀苦勞な老ハ形。今もあけく。拍角盗る
 取たる金銀と安心。況山小。きふ事あり。おん。うかじ世あり。又
 のこりして。苦勞たれども。漸くを捕まて後小始めて安んを
 さいひも形あり。ぬもしあてか。おん。うかじ世あり。又
 盗むむとて。やき。大徳ハも。おん。うかじ世あり。又

苦勞の大換とハ。羨少も。知るる事也。新井白蟻。害のつけの
 といふ書。盗賊か。り小馬麻ハ。極くのおん。うかじ世あり。又
 大馬麻。といひ。も。官遠あり。おん。うかじ世あり。又
 うらつとあり。自然の福徳と。求る人ハ。極くおん。うかじ世あり。又
 大利根形。け道理と志あり。おん。うかじ世あり。又
 大難儀大換大馬麻と。知るる。人同仲間
 小。盗賊仲間あり。おん。うかじ世あり。又
 ○文覚と。智恵あり。清る世あり。盗人の世の長老。おん。うかじ世あり。又
 けんハ。智恵文覚と。人だ。おん。うかじ世あり。又
 徳あり。盗人ハ。金流。宝の。長老と。おん。うかじ世あり。又

徳で形し。俸儀正直也。長事として。くつと。福徳と志
 とつふ事也。福徳安ん利根とつふハ。子孫非道とせ。正直小
 家業を出精とつとつ。故て儉約とつとつ。若ハ。松山就妙を樂とせず。正直小家業と出精すと
 樂とす。是善人の順心なり。又悪人の放捨者ハ。松んで居て
 金法とつがり。つてもなき小。金法れ出道は振く樂とつり
 志とつるなふ法也。家とつひ心をわらげとつり。つとつ
 しても。家とつとつ。家業と出精志して天然自然の福
 徳を求む君子の道あり。誠の福徳ハけ道あり。外小あり。
 徳と山事とつり。無理とつて。福徳と求むんとする人多し。

皆愚事小志也。盜賊仲間あり。小人愚志ハ。福徳と得
 るのを道とつとつ。智者の目かつとつ。村ハ。愚事小志也。
 福徳とつふの道あり。世にても。人の相とつとつ。大換
 盜賊かつとつ。やき徳ハつとつ。世事ハ次りよ至てとつとつ。
 大邪儀大馬鹿の道あり。世事ハ次りよ至てとつとつ。
 古事小も
 ○くつとつ。小目のつとつ。知つとつ。たつとつ。つとつ。人
 正直に取小やとつ。神とつとつ。正直の取小やとつ。神とつとつ。
 福徳安心なり。福徳安んの來る種とつとつ。又心性の法也と
 ありとつ。世にても。小。つとつ。人の相とつとつ。

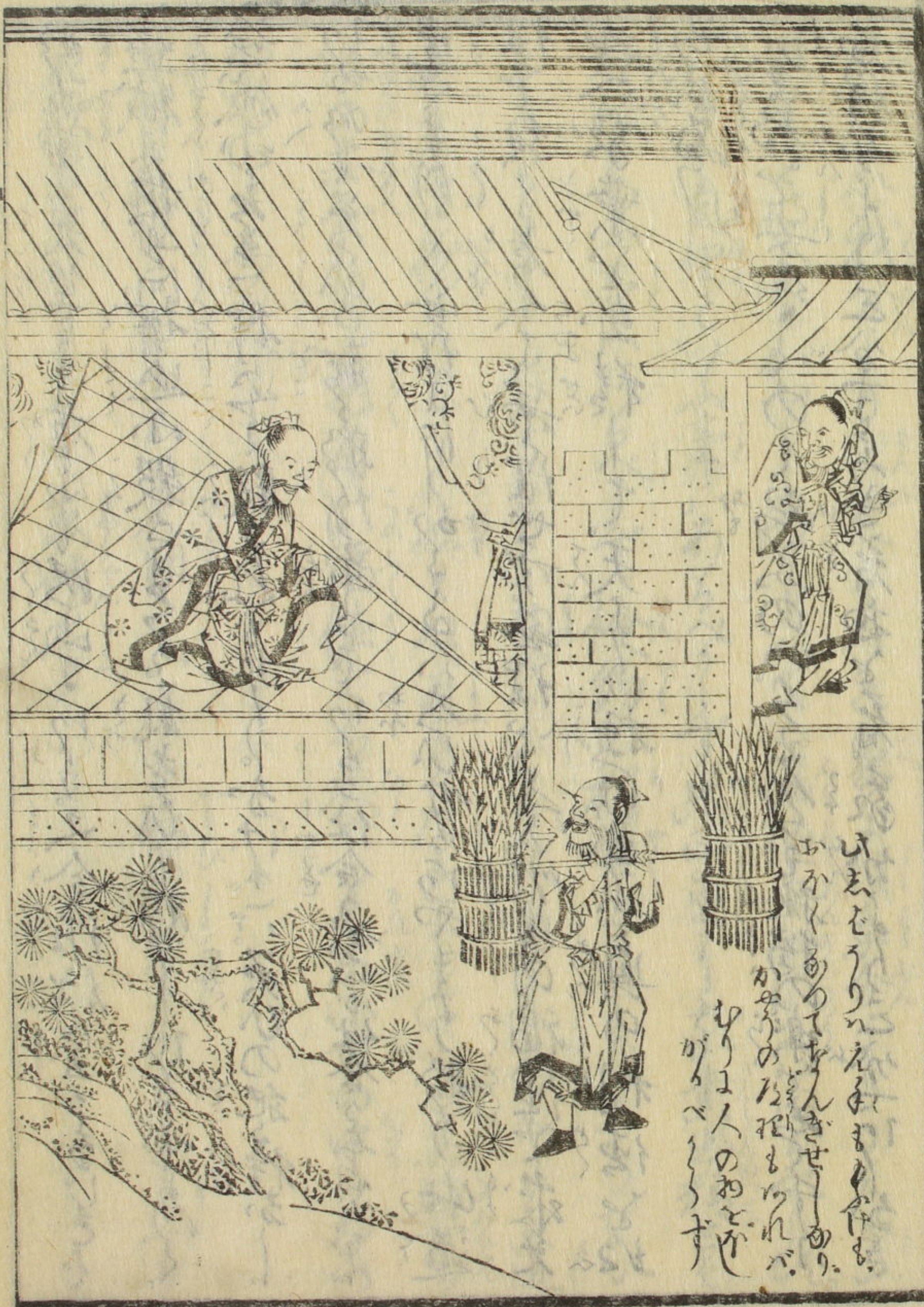
いひまゝにがし。又盜賊かたり。悪事と志て。首と切せ。
 磔等の罪に付。其れを。夫れで罪ハ消滅せりと思ふ
 人有り。大同遠い。世世で罪科よりある事ハ。華報とて
 未だも又地獄へ落るといふ。花の咲きしるあり。又地獄へ
 落ちてせめらるると。果報といひて。実と知りて一粒万
 倍の責苦と云ふなり。一度人ハ殺せむ。ふたたびも万倍も
 殺さる也。しきで獄門磔小なるも。又罪ハ滅しなく。六
 佛教と知り。びる人のいふなり。一もふし。人の世と
 およめし。無程し。西ハ。大換大難儀と知るべし
 人のもの伏望し。西。其れし。福人よあり。

色道とせし。貪定難儀の種。種中ハ知らん。又いふ
 貪定難儀する中。相違なり。福人よあり。人の世なり。
 貪定難儀する中。相違なり。福人よあり。人の世なり。
 出精し。そのころ。星と大村松の人中。いふ。
 又佛と相違。山事と志。人の世なり。貪定難儀の種なり。
 人々世事と志。佛儀正直。小善人。いふ。
 子理世道。貪定難儀大換の道と知るべし。無程せむ。

利かたきことしあけく。候とらふ。酒とのこて。小座あけり。
 ひざとが免ていだし。ひととまげて枕し。あど何うす。
 影も衣食も。まねく。料とあつて。種なきもあつた。たぐえ
 うち相あければ。盗賊のつともなり。一盃の酒と友として。
 樂とてきつむらぬ。言へぬ。劉伯翳はうや。賢人
 六女が幸也。今か。利潤あやぐ。は海とくたの。か。食
 積ま。あ。文とあつて。は。男大ひふ。あ。び。強。は。う。が。こ
 して。て。う。だ。い。て。ゆ。け。る。そ。の。り。う。ら。日。より。は。案。多。く。あ。つ。て。
 書ふ出。か。へ。る。内。中。は。是。え。い。つ。も。の。び。奇。も。う。こ。つ。す。う。こ。つ。す。
 味。不。帰。り。り。る。か。く。て。三。十。日。も。ほ。ろ。く。あ。の。ま。ま。文。の。積。と。

おまのり。わ。い。て。い。う。う。あ。つ。て。一。生。海。の。樂。は。は。積。ゆ。へ。り
 矢。あ。い。き。う。は。案。と。あ。い。出。る。内。中。は。は。の。倍。増。を。ま。は。は。は。
 水。く。ま。り。く。着。ひ。ひ。り。大。ひ。ふ。か。ん。ぎ。せ。り。む。利。か。た。き。あ。つ。て。
 そ。の。つ。つ。を。あ。ひ。の。こ。と。少。座。れ。う。ち。ま。の。く。一。重。と。盗。人。を。と。あ。つ。て。
 ひ。も。ふ。案。と。あ。つ。て。ど。う。も。や。せん。と。い。ふ。と。ど。う。も。帰。ら。な。い。奇。と。う。た。ふ
 初。も。も。あ。つ。て。い。く。ど。く。の。心。を。あ。ひ。又。出。入。の。氣。と。つ。け。彼。を。あ。つ。て。
 う。あ。つ。て。く。む。む。か。ぎ。り。か。し。こ。も。ふ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。
 積。り。う。ち。で。帰。り。け。る。か。く。賢。人。あ。つ。て。欲。少。あ。つ。て。高。人。ハ。
 今。も。昔。と。も。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。は。周。縁。と。う。え。ん。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。
 の。よ。い。あ。つ。て。福。人。安。心。と。い。ふ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。

儲けも多くなりて。金積がたまりきりあり。形なきを
 とかりく。つらう楽を失ふ。けふもえよと。いふを
 辱しめて。安心安楽おたりせり。世道理もつたばよく
 考へて。あまり強欲邪欲と。かきくべし。
 沙石集八。吾位和尚のつらう。財多けきを。此と害し。
 名高けきを。神に害すといひ。終らへ金浪紋室の法
 山つらうと。福徳安んといひ。つらう遠なり。金浪紋室の
 ゆふ。身と害する事あり。たつめも愚人科あり。室を
 抱ひて。答つらうと。室がかけきを。衆も科もたつ。おきり
 けりあり。趣くさぬ。か。邪説といひ。けりき。衆人中



けをうりいんきもいふも
 かくありて。人きせあり。
 かきりぬれもわれ。バ
 けり。人のおきり
 けり。ベし。

日月の雲は後篇下

道と学んと志す者ハ。悪き夜お味かきくらむ物と云ふ
 心ハ。和らやうか事少くハ。道のお法ハ出来ぬといふ事なり
 何事悪夜悪食と好んで用ゆるやうに致すべし。天の具が
 叶ひく。福徳ハ沢山と来んべし。當時
 河公儀の河政事小あつてハ。少しも。中しやうか。有が
 き河代形り。悦び喜んで家業と出積と云ふ。世の中が
 いろいろ。人氣がいろいろ。いふ河表ふり。何も中し分り。唯
 おおりのれ一事りうな。上卜成小。貧乏難儀十々なり。本
 とも小あつて。考へて居る。上卜成小。貧乏難儀十々なり。本
 奢るわ。國と亡く家とをらげ。身とをらげす也。驕の事

うへあげま。安心福徳の世れ中なり。亦る小大驕とすか
 上卜成小。貧乏難儀家門ハ火の雨が降あり。何れも極
 とつと。奢る。天卜小のりてハ。天卜とほら
 國おあつてハ。世とをらげ。家おあつてハ。世とをらげ
 後。思ろ志す。おらりののりあり。大悪の根也。を念の
 下地形り。思も情むべし。奇小
 ○ぶんある。名裳たる物。好まきおらる。六家の名例が。もか
 ○火の雨ハ。誰かゆ。けせ。家身の上。おらる。一字が
 當時ハ。と。世の中あり。驕り。の一事り
 あり。世の中が。い。やうに。けを。ら。れ。て。す。え

ちいふてふに、（ついでに）其の犬に、（た）仁のあつた
 情をせぬ。追ひを逃すより、人々の犬をよこす。何を愛す
 棒次持おむと申す。その犬の法方、（た）追すも、（た）大勢に
 取らん。終つて、（た）打つて、（た）毒子方あり。又文政八年
 の六月廿四日、七ツ頃、（た）淡子田原町へ、（た）利度あり。ゆゑ、（た）時
 田原町地骨の湯屋の向ふの、（た）髪結屋の、（た）新次と申す、（た）犬
 が、（た）心こゝろ、（た）せむと、（た）おと、（た）近所の、（た）住持、（た）真犬の、（た）森と
 香る、（た）あ、（た）舌口、（た）け、（た）ま、（た）ま、（た）果、（た）落して、（た）住持、（た）周果
 の、（た）光、（た）る、（た）早、（た）の、（た）あ、（た）ま、（た）う、（た）ま、（た）と、（た）取、（た）れ、（た）其、（た）時
 此、（た）松、（た）は、（た）思、（た）ひ、（た）し、（た）春、（た）の、（た）あ、（た）い、（た）犬、（た）が、（た）心、（た）知、（た）る、（た）也、（た）秋、（た）の、（た）ご、（た）と、（た）

善悪は天地の真中、（た）押、（た）た、（た）動、（た）や、（た）か、（た）と、（た）の、（た）あ、（た）り、（た）少
 しと、（た）か、（た）り、（た）や、（た）な、（た）り、（た）又、（た）な、（た）た、（た）る、（た）衆、（た）の、（た）け、（た）れ、（た）や、（た）も、（た）ほ、（た）し、（た）松、（た）ら、（た）ば
 が、（た）の、（た）衆、（た）と、（た）あ、（た）る、（た）べ、（た）ら、（た）の、（た）音、（た）を、（た）ぬ、（た）き、（た）て、（た）音、（た）聞、（た）音、（た）果、（た）悪、（た）因
 悪果、（た）毫、（た）厘、（た）も、（た）た、（た）び、（た）る、（た）。此、（た）事、（た）と、（た）ま、（た）り、（た）初、（た）り、（た）也、（た）
 予、（た）文、（た）政、（た）七、（た）中、（た）の、（た）八、（た）月、（た）十六、（た）ハ、（た）ツ、（た）頃、（た）用、（た）事、（た）あり、（た）江、（た）戸、（た）小、（た）徳、（た）町、（た）
 と、（た）通、（た）る、（た）時、（た）あ、（た）ま、（た）い、（た）犬、（た）が、（た）人、（た）の、（た）足、（た）に、（た）か、（た）い、（た）血、（た）の、（た）出、（た）る、（た）れ、（た）も
 この、（た）み、（た）痛、（た）や、（た）り、（た）ま、（た）も、（た）な、（た）り、（た）松、（た）は、（た）黒、（た）砂、（た）糞、（た）と、（た）角、（た）と、（た）い、（た）人、（た）あ、（た）り、
 イ、（た）ヤ、（た）せ、（た）れ、（た）は、（た）及、（た）む、（た）ぬ、（た）い、（た）ふ、（た）イ、（た）ヤ、（た）犬、（た）の、（た）心、（た）の、（た）毒、（た）な、（た）れ、（た）是、（た）非、（た）也、（た）
 け、（た）系、（た）次、（た）解、（た）は、（た）妙、（た）素、（た）あり、（た）と、（た）持、（た）ち、（た）束、（た）ち、（た）付、（た）て、（た）れ、（た）人、（た）の、（た）あ、（た）り、
 う、（た）れ、（た）は、（た）ま、（た）り、（た）其、（た）犬、（た）と、（た）見、（た）る、（た）人、（た）喰、（た）犬、（た）と、（た）え、（た）ぬ、（た）

江戸の金貨屋下

七二

夕いふしてらん。其れに於ては。わす
 惚とせぬ。追ひを逃す。人の犬を
 棒次おむ。犬の法方。追す。又文政八箇
 の六月廿四日。七ツ頃。淡路田原町へ。利更あり。ゆく時
 田原町。蛇骨の湯屋の向ふの。髪結の。新次を。木の犬。まか
 がる。心。こゝろ。せふ。ま。お。追。新。司。其。犬。の。床
 香。あ。と。舌。口。代。り。ま。く。ま。あ。は。り。と。は。拜。し。周。果
 の。先。づ。き。早。の。ま。の。あ。り。ま。う。ま。と。あ。れ。と。其。時
 此。新。は。あ。り。し。し。舟。の。あ。い。だ。が。ら。ん。知。る。ま。新。の。ご。と。し

せんや。分別の。人。間。は。病。と。つ。け。て。は。な。ま。ぬ。け。り。也。
 交。切。て。寂。滅。あり。これ。よ。の。く。人。の。罪。業。お。か。ぬ。や。
 人。の。病。と。な。ぬ。や。ふ。す。べ。し。な。ん。は。方。あ。ん。ぎ。ぶ。か。り。ま。を
 付。ら。ま。す。も。人。換。お。は。せ。て。つ。け。ぬ。や。ら。は。し。と。一。着。つ。け。て。
 我。身。の。滅。亡。の。時。と。あ。る。べ。し。犬。が。猫。と。取。替。と。あ。る。も。其。犬。は。ウ
 仕。思。也。況。や。人。間。の。行。更。の。事。と。あ。る。べ。し。と。中。に。小。な。り。非。道
 と。す。も。事。を。教。ひ。ま。す。犬。換。大。難。儀。と。あ。る。是。よ。う。て
 人。の。換。お。る。事。や。難。儀。お。お。る。事。ハ。せ。そ。は。は。し。と。す。又。人。換。を
 たり。け。と。あ。ら。ま。す。人。換。な。り。あ。り。し。日。色。は。な。ら。ぬ。老。と
 老。と。へ。い。ま。人。換。と。な。り。け。と。お。お。人。が。人。と。あ。の。智。恵。の。あ

何事なにもき教しよへとえて。よき道みちと通り。大福徳だいふくとく安心あんしんと成なるべし
 人ひとの富貴ふきとゆんととせむ。仁義にぎぎ礼れい忠ちゆう孝かうとせむ。佛神ぶつじんの感かん意いは達たつ
 其外そのほかと成なるべし。唯ただ正道ちゆうどうとちりて。佛神ぶつじんの感かん意いは達たつ
 今いまの世よれ人ひとは。其家そのかの富貴ふき子孫しよん無量むりやうと
 邪智じゃち邪智じゃち分別しよんべつを以もつて。是こゝと求もとむ。又またその轉まわり
 南なんの教しよへゆんととせむ。愈い行ゆて愈い遠とほく。其
 唯ただ正直しよくちよく心こゝろとつづく。若もし其その心こゝろとつづく
 出世しよせとせむ。せんととせむ。若もし其その心こゝろとつづく。よき事ことふのこゝろにせむ
 此こゝの通とほ心こゝろは。いふ奇きれ通とほりふからかへ
 見みせむ。天道てんどうは。善ぜん小福せうふく。漢かんの徳とくとあ

善行ぜんぎやうの人ひとは。福徳ふくとくとあり。悪行あくぎやうの人ひとは。貪あま多た之し難がた矣や
 天地てんち佛神ぶつじんの明白めいひやくは。こゝろを
 人ひとの書かきか。掛か九くとせむ。天てんは。罪つみとせむ。もこゝろを
 備そなへがき。ふないとて。修しゆののびく。柱はしらは。大おほひあるらやまり
 あり。早はやく善ぜんとせむ。是こゝの悪あくとつづくのふべし。居いるらやまり
 小こあらぬらやまり。今いまをもつふ不忠ふちゆう不孝ふかう不義ふぎの借かげは。去こゝろ
 あり。水みづは。やめりても。債つひは。祿ろくとあり。ぬらやまり。けころからを
 居いるらやまり。若もし其その心こゝろとつづく。地獄ぢごくとあり。関かへしてはらはり
 人ひとの借かげは。ぬらやまり。天てんよりからり借かげは。二ふた
 進すすも三進さんしんも。ゆく。其その心こゝろとつづく。平日へいじつは。不忠ふちゆう不孝ふかう不義ふぎ

づき。あまの不思儀さ。人やおろろくと。窓より見て居る
 一人通り。是はひらひと。多は走る出夫を
 捕るが。落せし。金敷布。形り。以方へ。傳へ。つと。り。び。か。の
 者。正直を。生ん。財。す。て。後。の。さ。う。ま。の。二。三。も。あ。り。財
 布。の。後。は。波。り。き。致。は。男。湯。取。り。長。修。財。布。の。き
 見。事。は。中。は。金。拾。兩。これ。傳。時。の。仕。合。を。り。志。う。り。あ。ら。う。実。は
 我。も。よ。う。う。う。う。金。子。を。り。夫。と。う。の。若。を。り。や。あ。は。我。の
 は。入。り。思。ひ。波。を。け。よ。の。傳。と。り。や。う。へ。と。こ。も。と。る。い
 ら。せ。ら。れ。た。れ。よ。是。は。進。と。す。と。金。を。兩。を。り。考。れ。は
 か。の。男。大。ひ。よ。あ。ら。ひ。是。は。わ。ら。が。と。い。ふ。は。れ。く。ま。

家。家。と。さ。う。て。か。り。け。る。え。り。負。考。の。事。な。し。と。金。五
 り。ひ。事。天。の。賜。と。い。ひ。は。金。子。あ。て。あ。さ。お。い。と。せん。と
 公。安。き。油。屋。と。ゆ。き。世。一。あ。と。致。け。油。あ。ら。び。道。を。お。ま。で
 かり。う。け。村。と。う。り。う。き。い。思。ひ。の。外。高。賣。懸。掛。こ
 大。分。の。利。と。終。一。事。な。し。と。又。外。の。品。と。も。持。あ。る。き。と
 小。う。り。せ。し。小。翌。年。と。い。ふ。金。子。拾。兩。を。あ。け。し。り。是。も。あ。り。て
 傳。へ。思。ひ。り。ら。是。則。最。初。一。あ。り。ひ。一。事。大。恩。あ。ら。ま。の
 人。の。傳。か。げ。と。金。子。拾。兩。を。あ。け。し。り。と。傳。者。お。れ。は。何
 中。け。ら。や。ら。お。ま。し。極。く。金。子。一。あ。は。り。ひ。中。し。夫。と。元。金
 め。極。く。と。か。せ。き。り。と。則。金。子。拾。兩。を。あ。り。出。來。中。し。

あまも。大病も。難儀せし。大換なり。二も。ふりて。えん
吾の。あまも。せぬ。の。知る。今。田の。老。ふ。ん。す
し。回。舎の。人。も。えん。天。も。換。け。あ。事。難。ひ。あ。
あ。の。理。非。道。は。な。り。て。せぬ。苦。の。事。も。理。す。も。い。つ。せ。大
換。とい。ふ。事。と。り。あ。べ。唯。正。直。家。業。と。出。精。し。て。吉
凶。禍。福。天。も。何。せ。く。も。えん。是。智。老。の。あ。さ。き。方。が。り。安
心。の。大。道。福。徳。の。根。源。と。あ。べ。君。子。易。易。小。居。て。天。命。と
信。と。い。安。の。事。が。り。あ。も。小。信。で。も。無。理。し。て。取。り。す。は
徳。あり。と。思。ふ。大。道。遠。也。
唐。の。魏。徴。とい。ふ。人。は。日。部。を。小。休。く。居。たり。ふ。二人。の。下。役

次の。同。少。く。物。被。り。す。と。聞。ふ。ま。人。の。い。う。く。日。が。立。成。は
い。成。の。と。わ。り。ひ。小。あ。り。と。い。ふ。又。ま。人。れ。い。う。く。家。等。が
立。成。は。天。道。何。せ。と。い。ふ。魏。徴。是。と。聞。ふ。即。ち。奉。状。と
漏。て。い。ふ。人。も。役。成。と。付。べ。と。役。成。を。い。ひ。ふ。入
急。病。少。く。申。ふ。天。道。何。せ。と。い。ひ。者。身。り。役。成。と。交
す。り。定。ま。る。帝。親。天。其。人。の。生。生。今。生。の。善。悪。は。い。ひ
ふ。り。く。私。か。く。貧。福。の。果。報。と。あ。べ。あ。と。ん。へ。ま。り
是。と。富。貴。天。と。い。り。と。い。ふ。あ。べ。は。報。復。の。あ。人。ふ。あ。も
貧。福。の。理。り。は。知。る。き。あ。り。あ。の。理。小。人。の。あ。と。あ。と
あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。唯。自。然。の。機。り。か。小。休。く

日月の長短を論ず

三

けひひく。家小止りく。常存左右とるべし。老後者の家
 業と出精とるべし。世道理小くもたらふ人。千條ハ入ふたき。
 又井ハ二井ハとけりく。何程金銀成室とけりけりも。
 福徳の因縁があらは。あかへく。知恵も才覚も及ぶぬ
 ものこあらへ。況や無程道徳とて。有る金銀成室ハ。口
 口ハのなかみへ。福徳のあらは。若福徳が求えたるも。
 只心重く家業と出精とる。身分お急の慈悲者根成
 いふすべし。さすき。福徳ハ教子た来る。無程道徳と
 けり。邪智邪分別とて。金銀成室成求めんとする。いふか
 盗賊の因縁とて。づきも大福ひが来る。とるべし。無程成

けり。思案と更とけり。人のおと唯有んとする者ハ無人也
 作のうき。盗人あり。風とみもあへかす。又あへり強
 欲とたさうずた。家業と出精とる。正直小言とる人
 色を。天より何事やうふ。沙汰ひひさるべし。そちやう
 こハ。天唱の改播列の老。家貧家して。沙年貞後金業
 亮造り。毎年不足お積りて。名もさうれむ。い僅後
 あり。是ふよりく十七女の娘と。京に控所屋へ勤事と
 う。必の代金と捨おと。傳た。そ金とて。是をその
 年貞に未進とと。池せんと。高と帰りけり。伏家の
 船のり場少く。金も波面所。大波と若く。いおん

てもすくもやうあり。さきさきして。國よかへり。あつた
 いるとゆる。あげきかへり。居るあへ。あつた。居る
 あり人あり。誰かちやと違へけり。世人のいり。貴云
 小何ぞ違ふおのち。中へ同けさ。しむをわやうり。れ
 張め。伏見の船場。金とみ接も落。たりと茶
 世男を金とみといふ。戦布を接と聞けり。けり
 男遠をいやうか。金とみ。拾へり。則ち金とみ
 王名茶の成。成て。居る茶も。先くは安のり。是
 か。金とみと戦布の接。相接しけれ。是は安のり。是
 天と作ぎ地。おひりて。あつた。供えり。さきさき。



金とみ
 さい布のまゝにて
 こそとて

征と本魚の
牙の上にお



むをこね^{きり}舟^{ふね}よむ
朝^{あさ}ゆふとま^まとりのそ^そゆ^ゆぢり
さぞや^や佛^{ぶつ}も^もお^おう^うの^のらん
むアさ^さぬ^ぬの^の返^へ弁^{べん}
朝^{あさ}ゆふとま^ます^す杯^{ばい}ぢり^{ぢり}の^の返^へ世^せのため
さ^さとま^{とま}じり^{じり}ハ^ハ家^かの^のた^たえ^えぢり



と、まゐりしとてあけ。南無阿彌陀佛よめはさふしと。
 まど髪からけてこもあひ。朝セウらら。あましく看て
 もどあすぬつてきむにむねがひ。あいつ二人の志と
 夜ふ。二人の小おくとづあゆもれども。夜よ小云可い
 ちり。事なし。夫よたれと私一人の氣よまぬうの
 中。あま。たれの終よ見。事かきい。あれが袖有哉。
 侍るると甘口むり。あまがまじ。出来ぬ。計政
 一。つ。通。く。看ても。志事。老。ど。ふ。ま。れ。あ。の
 中。は。長。く。あ。れ。あ。ま。ぶ。も。も。こ。あ。ら。あ。人。を。志。し。め。れ
 へ。二。日。も。よ。い。ら。ぬ。た。い。き。せ。く。仕。事。夫。よ。し。き。こ

の甚い。こもりともまぬ。これ。つ。あ。り。何。必。よ。
 よ。不。が。り。取。と。え。る。南。無。阿。彌。陀。佛。の。血。神。代。其。極。よ。い
 ぞ。衣。ま。す。物。ぞ。あ。い。づ。り。た。う。い。ふ。と。又。り。め。と。と
 思。ふ。と。ぞ。め。と。ま。る。南。無。阿。彌。陀。佛。ま。よ。の。さ。ら。か。な。る。ま。ま
 ち。と。ん。ん。と。れ。よ。ぞ。め。と。ま。る。と。は。福。ど。な。ら。ぬ。南。無。阿
 彌。陀。佛。の。下。女。が。い。し。く。口。袋。を。さ。さ。か。や。が。あ。い。ま。し。た
 何。が。あ。り。ぬ。見。よ。ま。ま。あ。い。ま。し。た。あ。ら。と。ま。し
 ます。い。し。く。の。女。の。あ。い。ま。し。た。あ。い。ま。し。た。あ。い。ま。し。た
 よ。四。十。と。や。し。た。あ。い。ま。し。た。四。十。と。や。し。た。あ。い。ま。し。た
 南。無。阿。彌。陀。佛。の。口。袋。の。よ。ろ。し。た。あ。い。ま。し。た。あ。い。ま。し。た。あ。い。ま。し。た

の人の事あり。歎よ。

○貧乏の神をいれどと戸次たて。然し身は我身の島

○上見れば思ひ出ても我身あり。我より下人もある事

○寒くはる。湯をいす。思ふべし。歎よ。此の何の事ぞ。

是等の事を見え得く。身のほど成り安んよ。くまじ。

又商人が自本の置損いをきく。居る唯我より上の者

を自らはきく。居る。くまじ。不足たり。くまじ。

此方へ何れ。貧乏あり。何某へ下男下女ともよ。女

人除も使く。此方へ漸く拾人あり。あな。あな。あな。

金銀田地も沃山より。此方へ少くもあり。何れ。

かきまふ。小た。ぬ。身。上。あり。あの人より見る。此方の

く。し。見。る。う。げ。も。き。事。なり。此。中。小。も。貧。乏。を

る。と。我。身。は。う。ら。み。我。身。は。の。不。成。を。な。げ。し。是

已。れ。が。心。より。此。理。は。貧。乏。神。と。ある。是。外。の。事。小。何。れ

ず。我。より。上。の。人。を。自。本。小。あ。る。の。事。なり。又。我

ら。ど。も。貧。乏。神。と。思。ふ。居。る。不。智。の。甚。満。なり。又。我

ら。り。下。の。人。は。千。石。と。も。時。々。つ。つ。も。福。人。あり。此。方。の

何。が。し。ら。り。の。福。人。なり。何。某。の。下。男。下。女。は。漸。く。拾。人

な。り。あり。此。方。の。下。男。下。女。は。貳。拾。人。の。餘。も。あり。何

の。人。の。千。石。取。此。方。の。二。千。石。取。金。銀。賤。寶。も。何。れ。か。も。沃

山より。此方の何某より福人なり。あり。また。い。と。い。え
 ぐ。く。も。是福の神なり。此より。い。び。何よりあると。い。ん。ば。
 我より。下の人。我。手。本。と。波。と。か。の。事。あり。我より。下
 の人。又。手。本。小。ま。ん。が。い。つ。も。福の神なり。我。手。本。皆。手
 本。の。置。ど。こ。な。い。の。な。い。や。う。小。ま。ん。何。も。我より。下の人を
 手。本。よ。あ。く。我。手。の。仕。合。の。と。も。事。成。り。と。い。は。し。め。ば。
 又。我より。上。次。又。も。切。な。く。下。次。又。も。切。な。く。唯。身
 分。相。應。の。處。を。と。り。と。少。く。も。上。次。又。も。安。ん。よ。う。と。す

べ。是。我。福。人。と。い。ふ。う。も。上。次。又。も。不。足。の。心。を。お。す
 ぬ。く。べ。若。不。足。の。心。次。か。こ。せ。ば。是。を。貧。乏。神。と。い。ふ。佛。聖
 人。の。貧。乏。神。と。仰。ら。る。い。重。浪。賊。室。の。あ。ら。な。い。の。事。小
 多。く。あ。ら。す。唯。足。事。成。り。と。い。ふ。人。を。貧。乏。人。と。仰。ら。れ。あり。
 左。換。か。く。い。叶。い。ぬ。道。理。なり。た。と。い。は。百。石。取。り。へ。或。百。石
 取。り。福。人。拾。万。石。より。或。拾。万。石。取。り。福。人。い。ん。や。五。拾。万。石。百。万。石。取
 り。猶。福。人。の。筈。あり。金。銀。米。穀。等。歳。よ。は。た。ま。り。沢。山。小。河。等。
 並。に。い。ふ。何。れ。と。い。ふ。や。り。と。い。ふ。と。あり。や。小。か
 者。あ。ら。す。左。換。の。人。壹。人。も。な。し。三。万。石。取。り。人。も。た。が。ず。五
 万。十。万。百。万。石。取。り。の。人。も。た。が。ず。福。德。貧。乏。何。所。よ

あつうちれだつて。または足事代知るを福の神と仰らるるを
 又をあつてや貧賤なれども安んぬれば肥ゆより富貴なれば
 心づるしければ瘦おとるは是苦樂の賤寶の多少小くも
 多く足事を知ると。あつては事なり。世性は人の物
 成りたり。世性は欲むるは足事代知る人といふ。又人事を
 成る。福德の天命は任る安んぬるは足事代知る人といふ
 人といふ。世性は欲むるは損の道なり。世性は欲むるは
 金銀財宝の中の手よの物小あつて唯苦勞むるなり。又
 大損の道なり。此は佛神の少欲知足を教へし。心を
 千番のむらや唯人事代知る足事代知る。安んぬ

くは是し。易くも欲深き者天地の神明は憎まれ諸人
 小くも人々をかし損むる事多しと云ふ。又思想
 念勝といふ書よの欲深きもの百非代知る。欲深き
 者の百非代知るもとあり。此も欲深き者のいふを要
 事代知る。欲深きものいふか悪事代知る。少欲
 こそなり。此道理は相違なり。此事代知るは少欲
 なり。五人福德も安んぬる少欲知足は。安んぬるは。何
 事足事代知る。福の神となつて。安んぬるは。安んぬる
 物も小。今の世の中は。足事代知るもの一人もな
 なく。三百石取の取は。五百石取の取。似代いふ。五百石取

七百石取の者なり。足ぬ管なり。勘定あるぬ管なり。
 考へる人百佳町人連も其通りあり。已出とおのれ貧乏
 人とある。サ、知といふ。又七百石取の。五百石取の。さ
 成波。五百石取の。三百石取の。成波とも。さうも。さうも。ひ
 位なり。況や。量より大い。手高き。しなれ。中
 収。たぬぬ管なり。貧乏とも。さうなり。智ある人のなま
 へ。事。思。末。い。ぬ。道理。初。切。め
 間。遠。なり。末。の。つ。ぬ。事。成。さ。る。なり。智。恵。も。学。文。も。算。盤
 盤。も。い。さ。ぎ。と。元。め。り。サ。差。サ。別。ぐ。ら。う。と。学。文。や。算。盤
 い。何。の。者。も。習。い。ま。る。や。い。け。り。た。い。才。代。治。家。代。紙

へんが。才。小。習。い。ま。る。なり。あ。う。も。小。才。の。福。を。さ。さ。ず。ま。る。事。に
 不。如。意。よ。う。ら。や。か。事。代。さ。る。なり。学。文。も。十。露。盤。も。い。さ
 ぎ。何。の。者。も。小。才。ひ。た。る。や。取。り。た。い。是。の。つ。ま。ぬ。小
 い。い。け。り。サ。ア。一。言。の。中。決。め。る。何
 卒。末。の。つ。ま。る。や。小。才。を。さ。さ。り。末。の。つ。ま。る。や。小。才。を。さ
 つ。ま。ぬ。事。多。し。い。ら。ん。や。始。り。つ。ま。ぬ。事。を。さ。さ。り。勘。定
 あるぬ管なり。足ぬぬの。沙。ほ。ま。ら。ず。入。道。と。出。道。を。
 千。萬。里。の。遠。ひ。あり。名。馬。も。走。り。も。進。角。が。あ。り。憶。え。た。れ
 たら。遠。い。な。れ。ど。誰。も。能。え。り。と。さ。る。者。あり。一。人
 も。志。す。人。なり。何。と。い。ふ。事。も。決。ま。れ。た。い。余。り。大。い。か

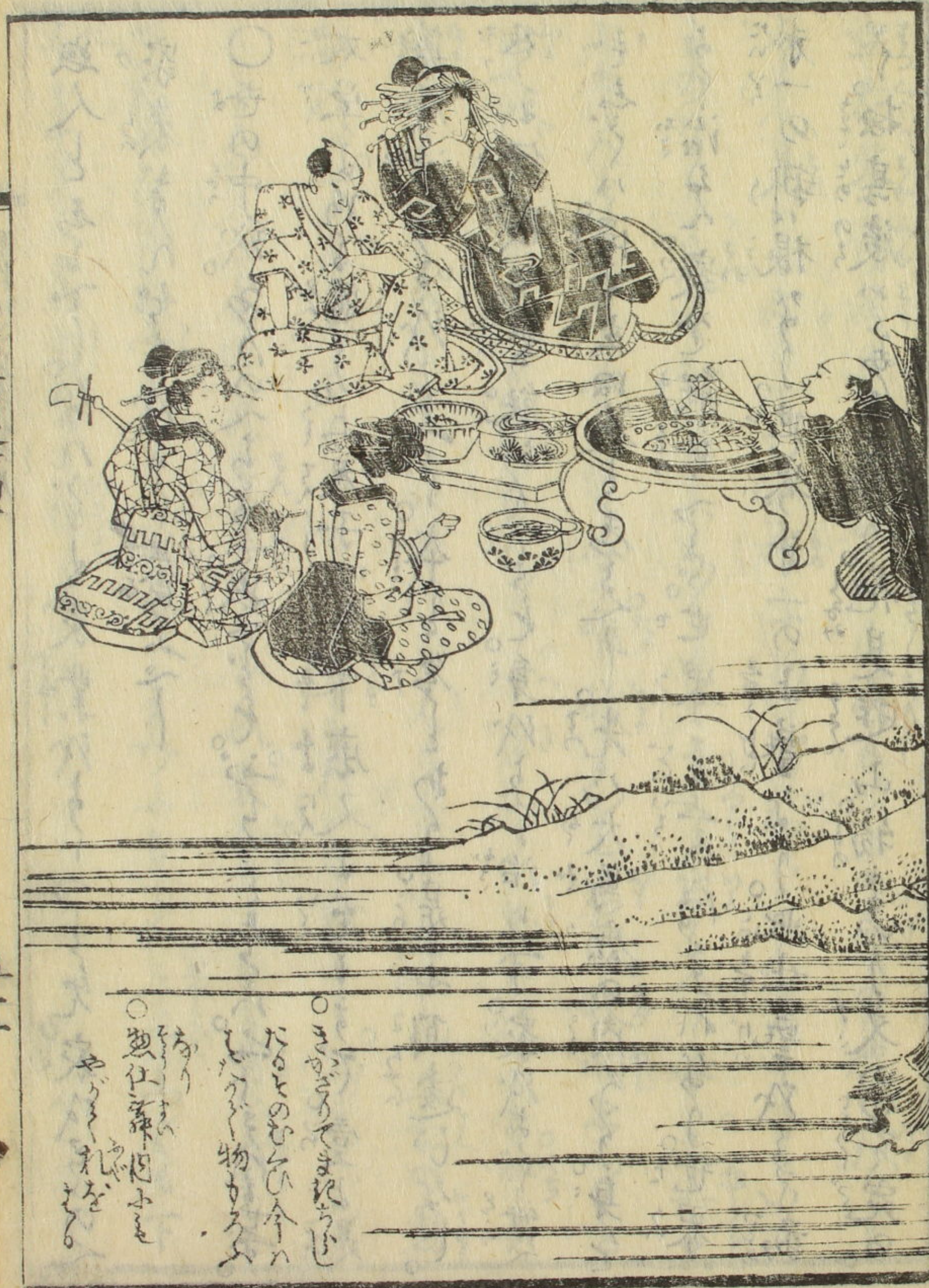
江戸心算術

四十六

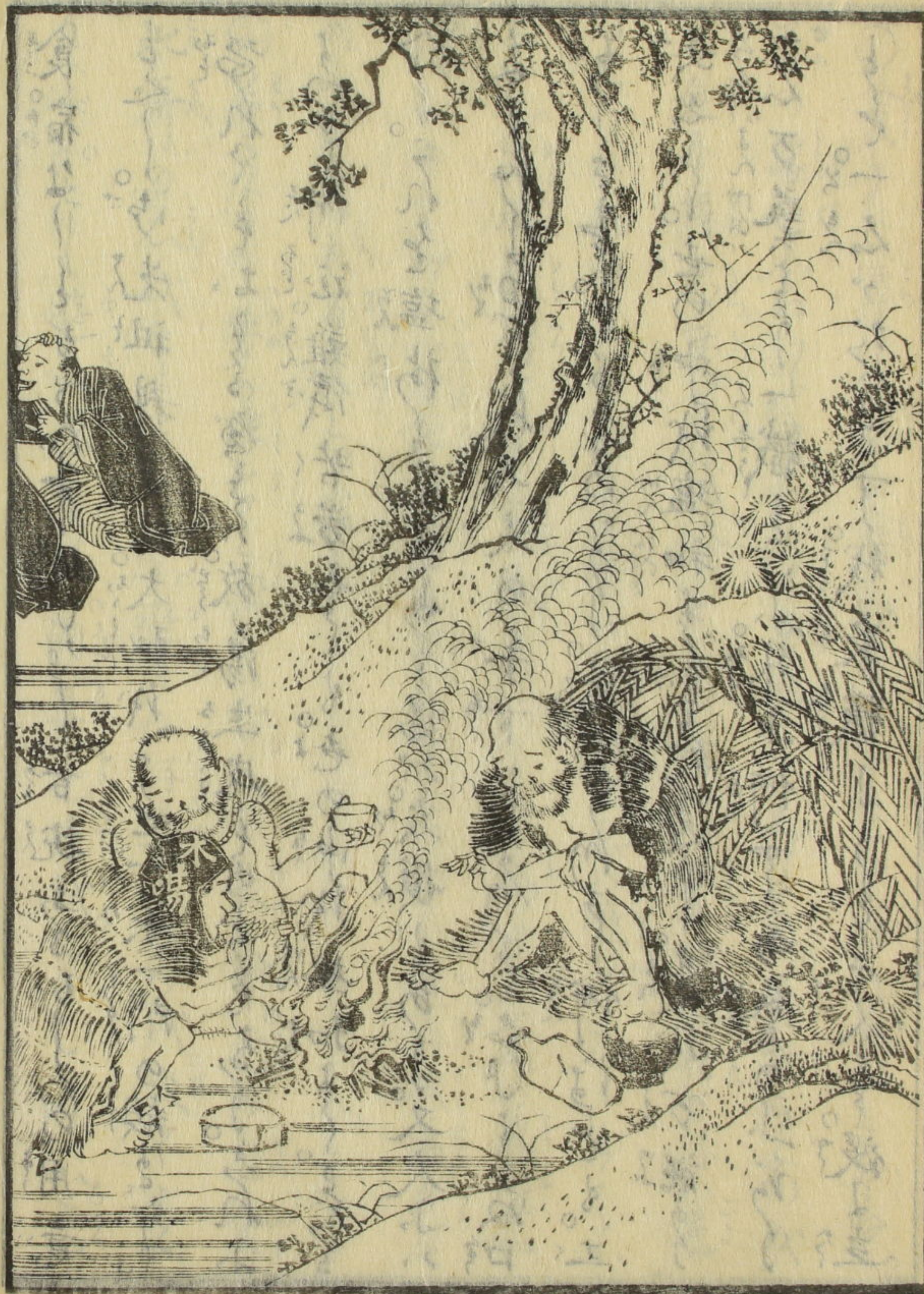
○貧乏と富貴も樂も苦みと夢ごとくせられ夢ごとくは。
 爰の浮世とわらわんども夢助とわらわぬ急夜とわらわ
 正直も持急度身以修せん急夜家業以出精せ杯は世
 らくされぬとまゝと夢の浮世と云い唯口より小ぢく小
 志く生皮放埒せよと云俊よらりも然る小爰の浮世や
 飲よまらびよ一寸先の暗の夜とやとり小遊山放蕩色と
 のみまら大百遠とついで

○若くより夢の浮世と樂このむ人の長命老の乞食
 此哥のふ代よと志く遊さん好樂このみ代笑と走
 りず遊山放蕩の酒宴色情代このむとこのハ乞

食宿なりとからん事疑いなく古枕ふるむるの用意
 とく先祖先親達小大取代とせ一家一門の顔とく
 恐れくもおそろる念も放蕩生皮とものどもるこれ小
 何れ難儀苦勞も世の中代塩和とく是れ
 一。これを塩梅とく福が大損もあり。又人小ハ
 多しゆ。思はん。又人の手下となる。さひも口
 おし事。あ。ものなり。是れ小何はども。工
 夫も。世の中代塩和とく。是れ万能あり
 一。万藝とく一職とく外小何やの藝のふり
 とく一。我家職小く人。漫よ立



○きりぎりすまはれちい
 なるものむかひ今ハ
 もかき物もろふ
 〇熱江藤田小毛
 やうりれを
 まる。



目月心三金銀伊集局一

五

○家業の道は才一とく仕置さくせの後き免中も南は
 此哥の通り小いも一む火くも中一づんかき人といふべし
 又出せ又句小禮義正しく懐み深く家業大事は才
 守れとあり此通り小相違なく此又修をよく心づく随
 分と人よりも身引りり少くも奢りぐほりも事法も
 うす。又金銀の出道は捨るやうふとて一ば身はか
 家成るのくこと事か至るむらうも事也上りの君子
 夫よく治る事うた一況やあめくの者ども不頼もつて
 出来た一。あられも何れども工まき塩梅よく治
 べしと云い。何やの三魂ありとも。何やの智慧ありと

身はよく治る事家成よく成るも事い何の役も主ぬ人
 と云ふ一生涯流浪一。人の事とあると云ふ人
 ちの万能より一んか。あつとぬと云人なり先ハ生智慧の
 人あり。あつ考へ見ると一幼少より行義を習ふ手習
 十落盤習する数百巻の書はよも皆これ才成るを
 家成るといふ人が治むあり外の事の入用はなほひ
 る小なり。此事成建と云ふ一智者也と云ふ小力成入
 う。身は治り家成るといふ人々小一是を我々の大役と云
 て一生は精進一。楽々又其中小あり是は成のたの
 みくと云水先も事楽々成のたのめと云ふあらず。苦

目録

五十二

一みの本あり。智者ハ心れを知。愚者ハ心れを不。又少
 欲知足。肯と志。自然の福德を。もと先給ふべ。又意
 悲心。成りし。身分相應の施。と被。志。堂宮の奇進
 等も。身分相應。不致。志。中。損。と。後。不。皆一
 粒万倍の功德。得るの道あり。志。れ。随。分。と。益。ら。り
 不施。志。り。又時。よ。し。を。授。ら。り。不。志。り。が。事
 あり。其時。の。よ。し。を。隨。て。施。志。り。と。志。は。ど。し。に
 喜捨。と。し。し。喜。捨。と。し。し。志。ら。り。此。返。報
 を。心。と。思。ふ。唯。も。ろ。と。捨。り。夫。も。功
 徳ハ莫量あり。是。も。志。を。治。え。家。以。成。り。志。い。生。来

ぬ事なり。かい袖ハ。し。れ。思。と。し。不。談。も。能。志。り。何。事
 袖。成。り。人。よ。し。袖。ハ。後。よ。主。ぬ。と。志。り
 ○惠。ま。ん。と。お。ふ。心。の。廣。も。ん。と。捨。も。う。か。や。袖。の。せ。ま。さ。よ
 人。不。施。し。ら。あ。し。も。かい物。ハ。ほ。ど。し。ね。是。よ。し。家。業
 次。出。精。志。り。家。成。り。の。施。志。り。人。よ。し。上。の。君
 子。なり。も。し。ひ。智者。呼。ら。り。学者。よ。志。り。す。る。も。身。成。り
 さ。え。ず。家。を。整。へ。志。ら。り。先。の。智。の。内。あり。智者。学者
 り。人。代。志。り。導。り。人。代。志。り。救。の。名。なり。然。る。よ。し。人。の。世。治
 ぶ。あり。人。よ。損。を。ら。け。り。大。い。ある。間。遠。い。何。と。智者
 学。匠。と。い。ん。考。え。り。身。上。の。事。よ。付。り。あ。ま。り。人。の。世。治

よくと云人の志の生ぬけと人の事なり大方の人があるらるの
 なるが暑くなく寒くなく御飯を多くたたく其上の事也
 尤授るる善事も出来ず後生も頼へぬなり何もなく
 てもよんとし人へ志の深い人の事なり大方の人へい
 りの成りんとたたく際があるも念佛ごとくしるやうな位
 の人なりなりこれよと身成治え家成その人の大入用の
 事と志えし又後生頼ゆる善事成ともと福德の余り
 するもあれ何れもなく出来ぬ事なり今日家賃喰
 との事ふあつたる中善事を出来ぬ後生も
 頼へぬと志えし是よと家業成生計志く家を潤へ

善事成後生も頼いふを貧乏でも後生の頼
 る者ども同く衣食足る後生代頼い念佛をせ
 ねよれとさかり
 釋尊も衣食足る佛道成修行せ走れと事なり
 なり是成真信二諦せりいたるよと修行者と作せられあり
 又家成成ると望の通り十分小もなり
 ありす先祖代よりの家督成ぬさぬやう小量す是も
 家を耕す肉あり何程智恵文覚ある人でも十分小調へ
 とし事へ出来うと切も果もい事なれば中十分と
 云事へ出来うと又沙先祖親達ありも後と身緒成

ありては家来もんどくとも多く使ひ家門繁昌も是亦上りの
 家次母へ入と云へ家次母のへるふも後次才高下のゆゑ也
 何卒先祖親達の徳より功次付く子孫へ凌ぎやうふこつ
 がへは是亦當職の才一ととも本あり急夜ふよさうもん
 子孫へ功次付く。ゆゑもへ

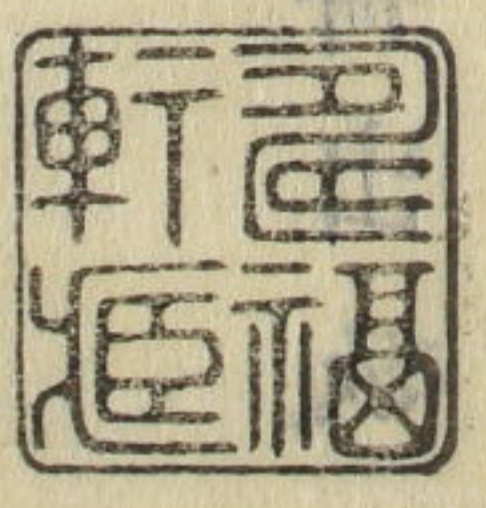
日用心法鈔後篇大尾

日用心法鈔	三冊出板	主従心得草	二冊出板
同 後篇	三冊出板	同 後篇	二冊出板
同 三篇	三冊出板	同 三篇	二冊出板
同	同	同 四篇	二冊出板
同	同	同 五篇	二冊出板

天保九戌歳七月吉日

東都下谷金杉

壽福軒述



三篇の草稿も出来とまわりゆかむを重板出板仕仕其有借ハ
 〇新中候編の尾の講釈〇く以初次以て樂の才一とすと
 りふ事〇沙版ハ何の爲ふふといふ事〇八文書へんごの事
 〇永代格次通り〇大教つり〇世意
 寶珠江えたる所〇利根ふありたくむ金銀のつと持と

のふ事おほゆら。○金持あかの何とあても不めらまるといふ事ひんがう。○貧乏
 人の純ぢゆんふえつて何とあてもまらまるといふ事ひと。○人の身みんは皆
 小のりてさいごは命とを安くくくくくやう。横よこありといふ事いちく。一く
 證しやう知ちとあしてある。一くいんの智ち同縁えん輕けいは多たけむむゆやく
 こそふもね成なるはるはるに焼やく中ちゆうさるべし

壽福軒藏板

- 日用心法鈔三冊出板 同後編三冊出板
- 同三編 三冊出板 同四編三冊近刻
- 主從心得草二冊出板

